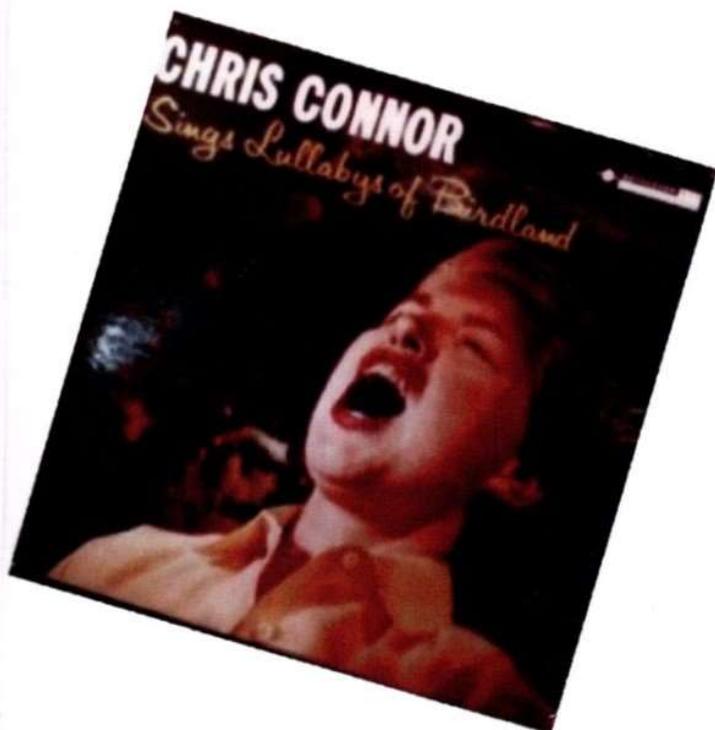




クリス・コナーの レコード史

飯田良樹



女性歌手クリス・コナーのレコード史

飯田 良樹

クリス・コナーは1927年生まれ、2009年に癌で亡くなったアメリカ出身のジャズ歌手です。

私はこの歌手が歌った「Lullaby Of Birdland」を聞き、Smokey Voice（ハスキー）で低音が美しく、彼女のCoolな唄い方に魅了されて彼女のレコードを収集し始めました。

楽団の専属歌手時代

彼女の最初のレコードは1948年クロード・ソーンヒル楽団で歌ったコロンビア「I Don't Know Why」です。10インチSP盤78回転で吹き込まれています。紙袋に入っていてジャケットはありません。



コロンビアSPレコード

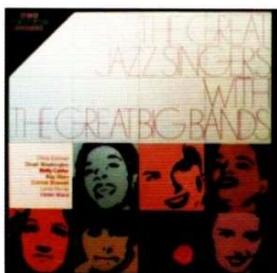


後で発売のLPレコード

1952年にはJerry Wald楽団の歌手としてデッカ「Cherokee」の吹き込みを行います。



デッカSPレコード



楽団歌手を集めたLPレコード

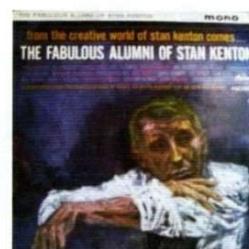
その後、1953年2月からスタン・ケントン楽団に所属。ケントン楽団所属後初となる吹き込みキャピトル「And The Bull Walked Around, Olay」は、ビルボード誌のヒット・チャートで最高30位に入るヒット曲となりました。

この頃になると、所謂ドーナツ盤の45回転7インチEP盤が登場します。初期はSPレコードと同じ

くジャケットはなく、当時流行ったジュークボックスが自動でレコードを換えやすい様にレコード中心穴を大きくしたのがドーナツに似ているのでドーナツ盤と呼ばれました。後にスタン・ケントン楽団で活躍した専属女性歌手3人（アニタ・オデイ、ジューン・クリスティ、クリス・コナー）をケントン・ガールズと呼びキャピトルからLPレコードが出ています。



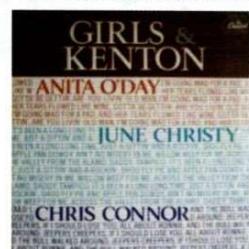
45回転7インチEP盤



ケントン楽団専属女性歌手集

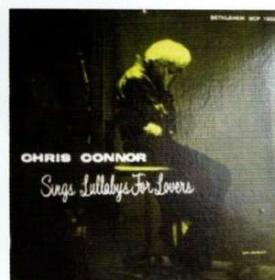


同じくケントン楽団専属女性歌手集の日本盤2枚



ベツレヘム・レコード所属時代

1953年にベツレヘム・レコードと契約。2枚の10インチ盤LPレコードを発表。中でも1954年発売の「バードランドの子守唄 (Chris Connor Sings Lullabys Of Birdland)」は、2万枚のセールスを記録。後に自身の代表作となります。



ベツレヘム・レコードの10インチ盤2枚

この当時は10インチLPレコード、7インチEPレコードと10インチLPレコードと同じ図案のジャケット付7インチEPレコードもあり、10インチSPレコードも併発されていてコレクター泣かせです。

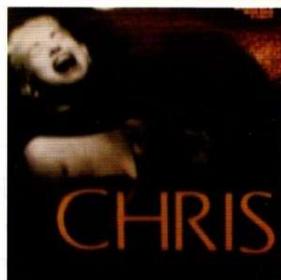
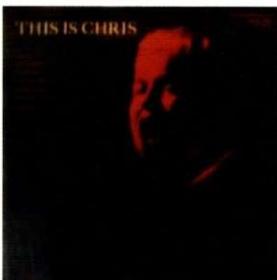
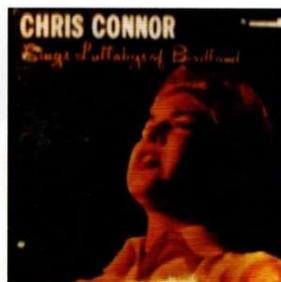
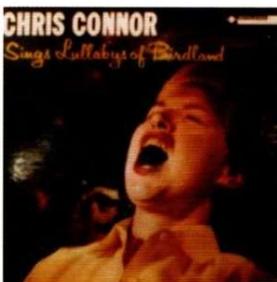


10インチSP盤78回転



7インチEPレコード

すぐ後に3枚の12インチLPレコードが発売されコレクターには大変な時代です。



上2枚はベツレヘム・レコードの12インチ盤LPレコードで口開きクリス、口閉じクリスと曲目は同じでジャケット違いとなっています。下はベツレヘム・レコードの他の2枚の12インチ盤LPレコード

ここまでのレコードの種類を整理すると

- 10インチSPレコード ジャケット無し
- 10インチLPレコード ジャケットあり
- 7インチEPレコード ジャケット無しドーナツ盤
- 7インチEPレコード ジャケット無しシングル盤
- 7インチEPレコード ジャケットあり
- 12インチLPレコード ジャケットあり
- SPレコード Standard Play 78回転
- LPレコード Long Play 33 1/3回転
- EPレコード Extended Play
 - 45回転 (ドーナツ盤)
 - 33 1/3回転 (シングル盤)

(回転とは1分に何回転するか。回転が多いほど、

音の領域が広がり音質が良くなりますが、入る曲目が少なくなります。そのために、機材の進歩で回転数が少なくしても音質を良くなるようにして入る曲目を増やしてきました。

SPが硬いシェラック材のディスクを鉄針や竹針で擦るものであったのに対し、LPは柔らかいビニールのディスクをダイヤモンドやサファイア針により低圧力で擦るので、摩擦音が大きく減少しました。摩擦音の減少にはディスクの回転速度が1分間に78回転から33回1/3に減少したことも貢献しています。(特に高音域において雑音と歪みが著しく減少しました。)

でも私はやはり竹針で78回転SPレコードを蓄音機で聞くのが好きです。

この時期は日本版やイギリス版は著作権の問題で一時期アメリカ版と同じジャケット写真が使用できませんでした。



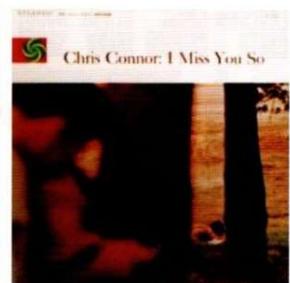
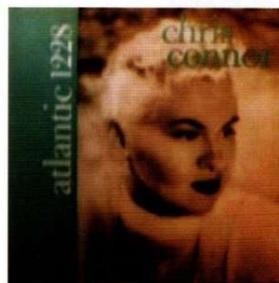
ジャケット写真違い日本盤



英国盤

アトランティック・レコード所属時代

1956年にアトランティック・レコードと契約。アトランティックに所属していた1956年から1962年までの期間に、クリスはメイナード・ファーガソン、ケニー・バレル、ハービー・マン、ラッキー・トンプソン、ハンク・ジョーンズ、オスカー・ペティフォード、ズート・シムズ、アル・コーン、ラルフ・シャロンらと13枚のアルバムの制作活動を行っています。





1枚目から13枚目はアトランティックのLPレコード。
14枚目のジャケット写真1961年はルーレット・レコードから
メイナード・ファーガソンとの共演盤を発表。

1961年7月16日リオデジャネイロでのAmerican
Jazz Festival In Latin America公演録音



ブラジルのImage社の2枚盤(1972年発売)とドイツのWest wind
社(1988年発売)

1961年、ホレス・シルバーと初来日し、1962年
1月2～15日の間、東京・大阪・名古屋・神戸・
京都で公演をしています。



名古屋公演時のプログラム

チケットと新聞の記事

FMレコード所属時代

1963年、クリスのマネージャーをしたMonte Kay
がFMレコードを設立。同レーベルへ所属して第1
作目として、ナイトクラブ「ザ・ヴィレッジ・ゲ
イト」でのライブ盤「ヴィレッジ・ゲイトのクリ
ス・コナー (Chris Connor At The Village Gate)」
を発表。

同年3月、パリのパークレー・レコードのスタ
ジオでアルバム「パリの週末 (A Weekend In Par
is)」を録音します。

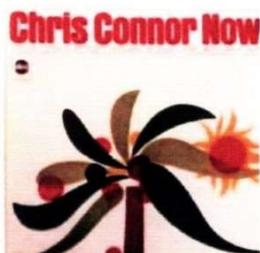


2枚のFMレコード

ところが、1964年にFMレコードは破産、ルーレッ
ト・レコードに吸収されました。

いろいろなレコード会社に所属

クリスはその為に、1967年～1983年に架けてABCパラマウント、Stanyan、プログレッシブなど様々なレーベルを渡り歩きます。



ABCパラマウントレコード



Stanyanレコード



プログレッシブレコードの2枚



Applauseレコード



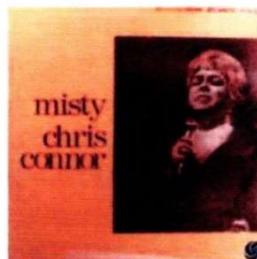
Stashレコード

1969年に再来日。その時にジョージ大塚トリオと行ったライブを録音したレコードが日本ビクターより発売されました。

1975年、当時日本におけるアトランティック・レコードの発売元であったワーナー・パイオニアが、アトランティック時代にクリスがに行った"シングル用の吹込み"のみを収録したLP「ミスティ」を発売します。



ジョージ大塚トリオとの日本ビクターレコード



ワーナー・パイオニアレコード

1976年、日本のCBSソニーが「Chris Moves」を吹き込みました。

1983年、東芝EMIはクリスとアーネスティン・アンダーソン、キャロル・スローンが日本でジョイント・コンサートを開いた時にスタジオ録音した作品「Three Pearls」を発売します。



CBSソニーレコード



東芝EMIレコード

ダイレクトカッティング

通常のアナログ・ディスクの録音は、テープなどに演奏を録音し、それを元に編集を加えマスターテープを製作、さらにそれをカッティングすることになるのですが、ダイレクトカッティングはその名の通り、一切の編集過程を経ないで、録音した音をそのままカッティングマシンと呼ばれる機械でラッカー盤に記録して、ビニール盤にプレスすると、限りなく、オリジナルの音に近い状態でアナログ・ディスクが完成します。1970年代から80年代にかけて、高音質なLPがリリースされていた時代もありました。



1978年ロブスター企画よりピアノトリオと録音

レコードとCDとの併売時代

1987年、1988年はコンコルドレコードに吹き込みます。この時代になると、レコードとCDとの発売になります。



コンコルドレコードの2枚

CD時代

1991年から1995年はアルファレコードより発売。

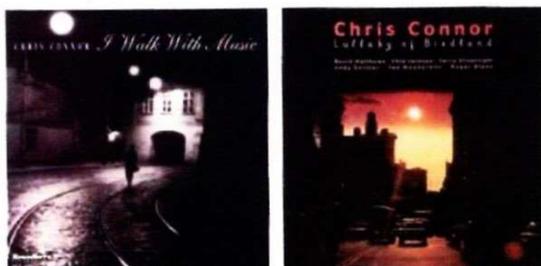


アルファレコードのCD 2枚



アルファレコードのCD 2枚

2002年キングレコードより発売。



キングレコードより発売のCD 2枚

2009年8月29日、癌によりニュージャージー州にて死去。彼女はレコードコレクターとしても有名。

また、レスピアンとも言われています。そう言えば、次の項目のホリデーイン南海で手配して頂いたマネージャーは、綺麗な女性でした。

懐かしい思い出のレコード

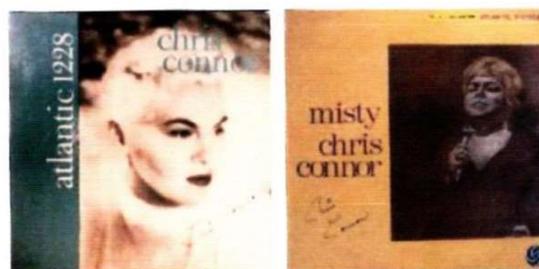
1992年12月21～25日、クリスが来日してキリンプラザ大阪でクリスマスコンサートをするとのことで、23日クリスが宿泊したホリデーイン南海に宿泊しマネージャーと接触、24日17時にキリンプラザ大阪の楽屋を訪れたら会わせると承諾を得たので、慌ててインスタントカメラを買って一緒に撮影してもらったが、一生の不覚はフラッシュ付でないカメラを買ってしまった事です。



チラシ



楽屋での私とクリス・コナー



サインして頂いたレコード 2枚

特殊なレコード

Vディスク

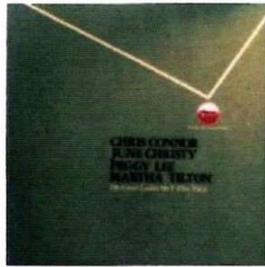
第二次世界大戦中および戦後の数年間に、米軍が前線や占領地の兵士に公式に配布したレコード。レコードの名称は「Vディスク」。Vは「Victory (勝利者)」の頭文字です。戦中にあっては専用の蓄音機や楽譜とともにパラシュートで戦地に投下され、戦後は船便などで占領地に届けられました。

盤の大きさはLPサイズの12インチ、回転数はSPレコードと同じ78回転。片面の録音時間は最長8分ほどで、片面に1～2曲ずつ録音されています。材質はポリ塩化ビニール。初期のSPレコードに使われていたシェラックと呼ばれる生物由来の樹脂製の盤も存在しました。

Vディスク盤とVディスクに吹き込まれた4女性歌手の日本製作のオムニバス。(Vディスク盤のクリス・コナーは未だ見つかりません)



Vディスク盤



日本製作のオムニバス

トランスクリプション

アメリカの放送局が「トランスクリプション」と呼ばれるメディアを開発して使用します。トランスクリプションは12インチで33回転でした。これにより1面で約15分の録音・再生が可能になり、放送局はこれで番組を録音制作し、時差のある地方局に送って各地で放送しました。(アメリカは4ブロックの時差)

放送局用の爲に、アナウンサーとのインタビューの後に放送局専属バンドをバックに歌うというライブ録音が多く、レコード会社から一般に発売された音源ではないので、コレクターは喜びました。

レコードにはない楽しみもありましたが、単にレコードを流す事もあります。



放送局用の4枚のレコード



普通はジャケットがありません。しかし、これは空軍の放送局用のレコードでNo1~10の10枚あり、珍しくジャケット付です。No10がクリス・コナーだけのレコードです。(1959年録音、ジャケット表、レコード、ジャケット写真裏)

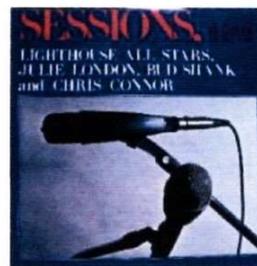
ブロードキャスト トランスクリプション

16インチでLPと同じビニールにプレスされた、ブロードキャスト(一斉同報通信)トランスクリプションと呼ばれる特殊なもので、33回転片面15分、針がLPよりも太いものでした。アメリカは商業放送なので、CMをカットし編集したものを米軍放送局用にわざわざレコードにプレスしていました。ドイツにダニューブネットワーク、台湾、朝鮮戦争後の韓国など世界中に点在して局がありました。いかにも物量豊富なアメリカ的処理方法です。このレコードを番組編成表に従って再生するだけで、15分に1回レコードをひっくり返せば良く楽ですし、同じ放送を各地で出来ました。アメリカ式のワンマンDJはそれ用に作ったFENスタジオからライブ演奏でレコードを出すようになりましたが、レコードの再生による放送もありました。

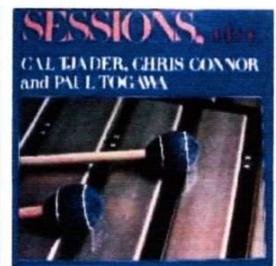


ブロードキャストトランスクリプションと16インチ、12インチ、10インチ、7インチの比較(レコードの大きさが変わってもセターレベルの大きさは同じ)

テレビ番組(Stars of Jazz)からレコード化

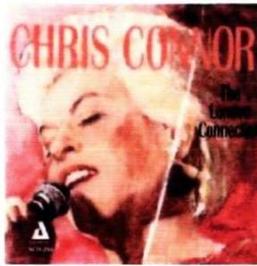


1956. 11. 5



1957. 5. 27

発掘音源CD



1959年ロンドンライブ



1959年アメリカラジオ番組



1981年スイートベিজル



ベツレヘムのオムニバス



ベツレヘムのオムニバス



誕生日祝い集
It's a most unusual dayを
歌う

オムニバスLPアルバム compilation album

コンピレーションアルバム (compilation album) は、何らかの編集意図によって既発表の音源を集めて作成されたアルバムです。「compilation」は「編集」という意味であります。多くの場合、様々なアーティストの曲を収録しますが、特定のアーティストのベスト・アルバムばかりを収録する事もあります。



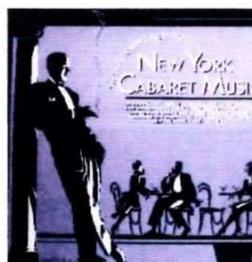
スタン・ケントン楽団



ラジオ番組収録盤



キャピトルの唄曲集

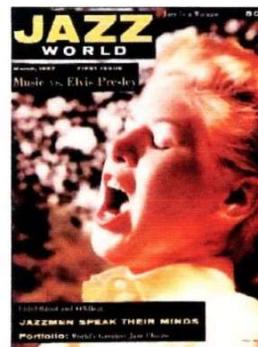


アトランティックの歌手集

おわりに

いろいろな種類のレコードがあります。これも収集家の楽しみでもあります。芸歴が長い演奏家や歌手を収集している者にとっては、全部収集するには至難の事です。とくに昔、地方で演奏したり歌ったりしてレコードになっていない音源が発掘され、CDにまとめられて発売されるという収集家泣かせもあります。(ディスクグラフィーを作製する者は嬉しいですが)

クリス・コナーのレコードを収集して30年になりますが、まだまだ完全にはほど遠い状況です。今回、私なりに収集したレコードの一部を「女性歌手クリス・コナーのレコード史」としてまとめてみました。



Jazz world誌の表紙



Down beat誌の表紙